

『税金のありがたさ』

練馬区立石神井東中学校 第3学年 原川 汐夢

「日本は何もかも揃っているし、どこでも安全だから日本の人は羨ましいです」今回、税の作文を書くことになった時、僕はふとカンボジアのドライバーさんが言っていた言葉を思い出した。僕は二年前の春休みに両親とカンボジアを旅行した。その当時、ドライバーさんは二六歳で、両親、兄弟を支えるために中学卒業後すぐに働き、今はホテルの専属ドライバーとして雇われていると言っていた。休みなしに働いてもお給料は一ヶ月で六千円。物価は日本とだいぶ違うが、かなり安いのに驚いた記憶がある。

その彼にかの有名なアンコールワットに連れて行ってもらった時のことだ。僕が遺跡に向かってしていると「ドローラー」と言いながらマグネットのお土産を持って二人の子供が近寄ってきた。二人は兄弟で一人は僕と同じ年、一人は五歳でボロボロのTシャツに裸足で平日昼間なのに学校には行っていないと言っていた。暑い中、一生懸命に売っている姿に僕は胸を打たれて、思わず買わずにはいられなかった。たった一ドルなのに、その時の彼らの嬉しそうな顔、目を輝かせて「サンキュー」と言っていた姿は今でも忘れられない。

カンボジアは約四十年前ポルポトという独裁者に統治されて、国を指導する人以外に知識人は不要という理由で、とても悲惨な大量虐殺が行われた。学校教育は廃止、校舎も壊された。ポルポト政権が倒れた後、校舎の建設が行われているが、教室数が全然足りていない一方で、中学校卒業率は三十四%と低く経済的理由で学びたくても学べない子がたくさんいる。

また、干ばつ、飢餓、疫病などで、毎年二〇〇〜三〇〇万人の国民が亡くなっている最貧国のひとつである上、地雷も未だ残っており、今僕が住んでいる日本からは考えられない世界が広がっていた。

一方僕は毎日、当たり前前のように舗装された道を安心して登下校し学校で授業を受け、教科書は無料で配られ医療も十五歳までは無料と何不自由なく暮らしている。今まで、これが当たり前と思って生活してきたが、この生活は税によって守られているのだと知り、改めて税のありがたさを実感した。今まで税金は何のために払い、どのように使われ、そのおかげで快適に安心して暮らせているのかなど考えたこともなかったがその恩恵に深く感謝した。今後は未来の日本がより安心して快適に暮らせるように、そしてカンボジアなどの貧しい世界中の国々が少しでも豊かになり、安心して教育を受けられるようになればいいなと心から思う。そのためにも税金をしっかりと払い、正しい税の使い方を学んでいきたい。